

講義番号		授業科目名	法人税法特論 B			担当教員	佐々木 一義							
		英語授業科目名	theory of corporate income tax			単 位	2	学 期	後期					
対象年次	1・2年次		クラス指定	なし		他との関連								
履修条件	なし													
テーマ・副題														
授 業 の 教育目的 ・ 目 標	法人税法に関する基礎理論を修得させる。													
授 業 の 理解度の 到達目標	論文作成に資する法人税法の諸問題を判例・学説を通じて習得する。													
授業キーワード														
授業の内容	法人税法の基本的な構造・歴史等について、学術的観点から分かりやすく講義する。													
授業の方法	法人税法特論 A（前期）で習得した判例紹介に基づき、履修生が発表し、その後に解説をする。受講する学生が順番に発表する方法をとる。教師と学生間及び学生間でインターラクティブに授業を進める。													
授業展開	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 発表 2. 発表 3. 発表 4. 発表 5. 発表 6. 発表 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> 院生の数に合わせて 発表回数を調整 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 7. 発表 8. 発表 9. 発表 11. 発表 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 発表 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> 院生の数に合わせて 発表回数を調整 </td> </tr> </table>										1. 発表 2. 発表 3. 発表 4. 発表 5. 発表 6. 発表	院生の数に合わせて 発表回数を調整	7. 発表 8. 発表 9. 発表 11. 発表 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 発表	院生の数に合わせて 発表回数を調整
1. 発表 2. 発表 3. 発表 4. 発表 5. 発表 6. 発表	院生の数に合わせて 発表回数を調整	7. 発表 8. 発表 9. 発表 11. 発表 12. 発表 13. 発表 14. 発表 15. 発表	院生の数に合わせて 発表回数を調整											
成 績 評価方法	課題の発表内容（60%）および授業への取り組み姿勢（40%）を評価要素とする。													
成 績 評価基準	総合点が 80 点以上を A、79～70 点を B、69 ～60 点を C、59 点以下を D とする。													
テキスト	①金子宏『租税法（第 24 版）』（弘文堂） ②租税判例百選「最新版」ジュリストNo.228													
参考図書	適宜紹介する。													
準備学習に 必要な時 間、又はそ れに準じる 程度の具体 的な学習内 容	テキスト（金子宏『租税法（第 24 版）』（弘文堂））の中にある次回授業の該当箇所を熟読すること。													
学生への メッセージ	前期法人税特論で習得した知識を生かし、金子宏『租税法（第 24 版）』（弘文堂）及び租税判例百選「最新版」ジュリストNo.228 等（参照する裁判例はテキスト以外でも構わない）にある裁判例を題材に発表する。													
オフィスアワー														
連 絡 先	電話番号	(内線：)			メールアドレス									
人数制限	なし													

